

小児循環器科

Pediatric Cardiology

小児循環器科部長	森 善樹	S55	日本小児循環器学会評価議員 小児循環器専門医 小児科専門医
主任医長	中 篤八隅	H03	小児科専門医
主任医長	武田 紹	H04	日本小児循環器学会評議員 小児科専門医 小児循環器専門医 日本循環器学会専門医

【実績】

	患者数	新患者数	成人先天性心疾患患者数	心カテーテル(治療)	心臓超音波	胎児心臓超音波	造影CT	MRI	RI	TMET	Holter
2008	1222	355	75	107(55)	1408	31	37	27	17	76	90
2009	1003	324	95	86(33)	1384	31	38	20	18	65	100
2010	3247	372	397	111(42)	1104	47	14	12	20	85	122

* 2010 年の患者数、成人先天性心疾患患者数は延べ数

■小児科専門医取得までのカリキュラム

【対象】

2 年間の卒後臨床研修を修了し、小児科専門医・小児循環器専門医を目指す後期研修医を対象とする。

【任期】

卒後臨床研修修了時から小児科専門医取得(学会歴が引き続き 3 年もしくは通算 5 年以上と、卒後臨床研修(2 年)終了後に学会指定施設にて小児科臨床研修 3 年以上が必須)まで(毎年更新)とする。

【当科プログラムの特徴】

小児循環器専門医取得には小児科専門医(ないしは内科専門医)であることが必要条件となっており、基礎となる小児科全般の研修が非常に重要である。そのため最初の 2 年間(医師 3-4 年次)は一般小児に重きを置いた研修をおこなう。当院小児科には一般小児に加え血液・腫瘍、神経、腎臓、内分泌・アレルギー、新生児分野のエキスパートがおり、それぞれの専門領域の研修ができる。その研修は基本的に当院小児科合同専門医研修プログラムに従うが、研修施設は聖隷浜松病院小児科、新生児科とし、三方原病院へは希望者のみとする。医師 5 年次以降は聖隷浜松病院小児科を研修場所とし、小児循環器に重きを置いた研修プログラムとする(小児科専門医取得後のプログラム参照)。

【研修内容】

【一般目標 General Instruction Objective : GIO】

将来、小児循環器科という専門性を習得するために、その基礎となる小児科医としての基本を身につける。そのために小児科領域の日常診療において頻りに遭遇する疾患の病態を把握し、適切に対応できるようになる。またその患者さまのもつ様々な身体的、心理的、社会的問題を理解し、共感をもって医療にあたることができる、医療チームの一員として和をみだすことなく、基本的診療能力(態度・技能・知識)を取得することを目標とする。

【行動目標 Structural Behavior Objectives : SBOs】

小児科合同専門研修プログラムに準ずる。

【方略 Learning Strategies :LS】

小児科合同専門研修プログラムに準ずる

【評価 Evaluatiton :EV】

小児科合同専門研修プログラムに準ずる。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土	
午前			抄読会				
	一般外来						
	病棟診療						
	心エコー		心エコー				
	循環器外来 成人先天性心 疾患外来 第2週	循環器外来				循環器外来 成人先天性 心疾患外来 (第2,4週)	
午後	入院患者カンファレンス						
	乳児健診		乳児健診		乳児健診		
	予防接種		予防接種		予防接種		
	内分泌外来	血液外来	リウマチ外来	フォローアップ外来	内分泌外来		
	てんかん外来	てんかん外来		てんかん外来	腎臓外来		
		喘息外来	喘息外来				
	循環器外来	循環器外来					
	病棟診療						
		心エコー	心臓カテーテル検査				
	NICU 入退院報告	周産期 カンファレンス	心エコーカンファ レンス	合同カンファ (第1,3週)	小児病棟 入退院報告		

【研修スケジュール(例)】

医師 3-4 年次		医師 5 年次
3-4 年次	4 年次(半年)	循環
小児科一般(感染、血液、神経、 腎臓、アレルギー、循環)	新生児	

■小児科専門医取得後のカリキュラム

【対象】

基本的に小児科専門医を取得しており、小児循環器専門医を目指す医師を対象とする。上記(2年間の卒後研修終了後)プログラム研修中で、小児専門医取得が未の医師6年次以降の医師も含む。

【任期】

原則、開始時期から小児循環器専門医取得までとする(毎年更新)。終了時に小児循環器専門医試験を受験する。

【当科プログラムの特徴】

小児循環器科の診療対象の患者さまは新生児、小児に限らず、高校生以上の成人も含まれる。そのため循環器内科とも協力して、患者さまの診療にあたることもあり、その分野の研修も可能である。

希望により、麻酔科などの他科のローテーション(短期のみ)、または国内留学(東京女医医科大学小児循環器科など)も可能。

【研修内容】

【一般目標 General Instruction Objective : GIO】

先天性心疾患をはじめとする川崎病、不整脈などの小児循環器科領域の疾患の病態を理解する。また様々な患者さまの身体的、精神的問題のみならず、家族を含めた問題を理解し、共感を持って接し、適切に対応できるようになる。心臓血管外科、循環器内科をはじめとした他科との連携が必須の診療科であり、医療チームの一員として診療能力(知識、技能、態度)を身につける。

【行動目標 Structural Behavior Objectives : SBOs】

正常心臓の解剖・生理、また成長に伴う変化について説明できる。(知識)

小児循環器領域の各種疾患の自然予後を理解し、病態を把握し、説明できる。それに基づいた検査、治療方針を提示できる。(知識)

各種疾患の胸部 X-P、超音波検査、造影 CT、MRI、核医学などの画像診断の検査法の特徴を理解し、その検査の実施と所見を解釈できる。(知識、技能)、

心電図、Holter、運動負荷検査、電気生理学的検査などの生理検査法の特徴を理解し、その検査の実施と所見を解釈できる。・知識、技能)

心臓カテーテル法や心エコー法において Segmental approach を用いた適切な形態診断とそれに付随した心機能の解析ができる。(知識、技能)

麻酔の基本を習得する。(知識・技能)

患者とその家族に対し、病態と検査や治療の必要性、合併症について適切に説明できる。(知識、態度・習慣)

他科、その他のコメディカルとの連携のもとに、チーム医療を実践できる。(態度・習慣)

診断カテーテルの適応と限界をふまえ、安全に術者として行うことができる。(知識、技能)

カテーテル治療(アブレーションを含む)の適応と限界を踏まえ、安全に行うことができる。(知識、技能)

臨床研究に参加し、その成果(症例報告を含む)を発表する。(知識、態度・習慣)

【方略 Learning Strategies :LS】

No.	SBO	方法	時期	人数	場所	時間	媒体	指導協力者
1	1~7	自己学習	全研修期間	1	医局・図書室	1時間	教科書・論文	図書室司書 電算管理者
2	1~7	ミニレクチャー、カンファレンス（エコー、心臓券外科合同）	全研修期間	2~15	医局・外来・病棟、カンファレンスルーム、エコー室	1時間	論文、教科書、PC	指導医 上級医
3	3-6 9.10	実技研修	全研修期間	2~3	外来・病棟・エコー室 カテ室	2時間	患者、家族	指導医 コメディカル
4	7.8	臨床経験・実習	全研修期間		外来・病棟・エコー室 カテ室、手術室		患者・家族、 医師、看護師 その他のコメディカル	指導医 上級医 コメディカル
5	11	学会参加	不定	2~3	学会会場		Video, 論文 PC・診療録	図書室司書 電算管理者 指導医 上級医

【評価 Evaluatiton :EV】

SBO	対象領域	目的	方法	測定者	時期
1-7,9,10	知識	形成的評価	他者評価	指導医	研修中随時
3-6. 9,10	技能	形成的評価	他者評価	指導医	研修中随時
7. 8.11	態度・習慣	形成的評価	他者評価	指導医	研修終了時

【週間スケジュール】

2年間の卒後研修終了後プログラムの週間スケジュールと同じ

【年間スケジュール】

希望があれば3カ月は麻酔科ローテーションをし、それ以外は小児循環器科に固定し研修する。月3-4回程程度の一般小児科の当直と月4-6回の小児循環器科コールを行う。